

特集 夢を染めあげる若者たち

伝統に新しい風を吹き込んで

個性を形にする

学び舎

三原から電車に揺られて1時間あまり、新倉敷駅を降り、駅からバスに乗って程なくすると、丘の上に倉敷芸術科学大学が見えてきます。木下知恵さんの通う大学です。

朝早く家を出て、遠くの学校まで通う木下さん。作品のイメージは、通学の電車の中で音楽を聴きながら考えま



初めて制作した着物「虹の国」



す。「物思いにふけり、リラックスするには最適。私には、大切な時間です」と言います。



大学では、制作の合間に友人と談笑

▶ 打ち掛けは完成し、帯を残すのみとなった卒業制作



静かな作業場に響く音。ゴシゴシとはけをこする音です。手描き友禅染めを学ぶ木下さんは今、卒業制作の着物作りに取りかかっています。来年1月16日から21日まで開

友禅染め
木下知恵さん
(幸崎町)

かれる卒業制作展に向けて、真剣な表情で、細かい模様に取り組みます。

きっかけは友人の言葉

美術の道へ進路を決めたのは、高校二年生が終わる頃、友人の一言からでした。

授業で描いたイラストを見た友人の山中祥子さんに、「ちーちゃんの絵が好き」と言われたことがきっかけでした。高校三年生になってからは画塾に通い、倉敷芸術科学大学に合格しました。一年次は、ガラス・陶芸・染織のすべての科目を勉強しました。

二年次になるときに、「染めることが一番自分に合っているし、色使いや模様など、自分の思いを表現できる」と確信し、染織を選びました。

初作品は、バレエシューズを描きました。大好きだというピンク色。「淡いピンク色の物を身につけると、幸せになるそうですよ」と、今でも額に入れて大切にしています。

三年次には、初めて着物の制作に挑戦しました。タイトルは「虹の国」。全体のエメラルドグリーンが大変美し

ちーちゃんの絵が好き



高校時代からの友人
山中祥子さん
(中之町四丁目)

美術の授業で、カレンダーに描かれたクリスマスケーキの絵がかわいくて、ほめるととてもうれしそうだったことを覚えています。

私の妊娠中にくれた年賀状には、赤ちゃんをおなかに抱えた妊婦さんのイラストが描かれていて、とても優しい印象でした。

特集

夢を染めあげる若者たち



幼い頃から物作りを
教えてくれた祖父
木下松丸さん

手先の器用さは、竹細工の道を究めた祖父、松丸さん譲りなのかもしれません。
「小さい頃、絵や工芸を教
えていましたが、幼いながら
に研究熱心なところがありま

す。
母の一恵さんは、「知恵は、
幼い頃から手先がとて器用
で、絵を描くことも大好きで
した」と言います。複雑な折
り紙も難なくこなし、幼稚園
の先生も驚いていたそうで

手先の器用なバレリーナ

く、虹の上を駆けるユニコー
ン（一角獣）が幻想的な印象を
与える作品です。この作品を
県美展に出品、そして見事に
入選を果たしました。



した」と松丸さ
ん。
自宅には、絵
画、染物をはじ
め、小さい頃に
作った人形など
が大切に飾られ



高校一年生のバレ
エの発表会で

「いつかまたやりたい」と木
下さんは言います。
そして気がつけば、10年も
続けていました。大学での作
業が忙しくなったため、昨年
卒業してしまいました。

そんな木下さんがクラシッ
クバレエを始めたと言いつ
つ、家族はたいへん驚
きました。「やりたいことは
何でもやってみればいい」と
いう家族の後押しもあり、バ
レエ教室に通い始めました。

野山を駆け巡ることも大好
きでした。見た目も行動も、
男の子のようだったといいま
す。

クラシックバレエの経験を
生かし、三年次には、バレエ
の演目「ジゼル」の衣装を制
作しました。そのドレスは、
女の子が一度は着てみたいと
思うようなかわいらしさで
す。

伝統工芸を私らしく

大学のゼミ教官、森島由紀
子先生は、「個性が強く、心
配なところもある反面、将来
が楽しみです。彼女にしか表
現できないファンタジーの世
界を大切にしてほしい」と期
待しています。



日遠方から、ファンレターを
くれた人もいました。「私の
作品を見て、感動してくれた
人がいることは、とてもうれ
しかったです。ますます意欲
がわきました」と木下さん。
「大学院に進んで、もっと
深く手描き友禅染
めを勉強したい。

おとぎの国から抜
け出したような
「ジゼル」の衣装

簡単な道ではないけれど、好
きだという思いを大切に、伝
統を継承していきたい。私の
染めた着物を、家族や友人が
着てくれたらうれしいです」
と、大きな夢を持ちながらも
その笑顔には、身近にいる人
を喜ばせたいという気持ちが
あふれていました。

周囲を和ませてくれる明るい
性格、変わらずにいてほしい
です。

自由に楽しむ感覚を持って



倉敷芸術科学大学講師
森島由紀子さん
(奈良県橿原市)

着物一枚に約3か月、一人
の職人が1年で作れるのはせ
いぜい四枚です。現状では、
手描き友禅染めという伝統工
芸を引き継ぐための、人も道
具も工場も少なくなっていま
す。先人が培った伝統工芸を
絶やさないように、木下さん
のような若い人たちにがんば
ってもらいたいです。古い形
式にとらわれず、自由に楽し
む感覚を持つことが、長く続
けていくためには必要だと思
います。基本をしつかり学び、
新しい技法をどんどん取り入
れていくしてほしいです。

言葉のツボ

友禅染め…ゴム糸目の置き防染による引染めが特
徴の様染め。
ジゼル…アダン作曲のバレエ音楽。ドイツの詩人
ハイネが書いた物語を基にしたロマンチ
ックバレエの代表作。